

第4次豊田市森づくり基本計画

第1回とよた森づくり委員会及び委員等へのヒアリングにおけるおもな意見

実施日 第1回とよた森づくり委員会：7月8日

委員等へのヒアリング：8月25日から10月19日

対象者：とよた森づくり委員 14名

豊田森林組合の経営層、課長級、係長級職員

榑崎 達也氏（FOREST MEDIA WORKS（株）：森林コンサルタント）

北岡 明彦氏（森林課OB：現構想の策定に中心的に関与）

＜基本理念1 公益的機能が発揮される森づくり＞

施策目標	事業	おもな意見
1 過密人工林の健全化	(1) 森づくり会議区域内における団地化の完了	—
	(2) 間伐の推進	・ 間伐の面積目標が高すぎるため、見直しが必要
2 持続可能な森づくりに向けた方針の整備	(1) 森林区分（ゾーン）、目標林型及びその誘導手法の再検討	<p><目標林型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 針広混交林は針葉樹林よりも公益的機能が優れているという科学的根拠はない ・ 針広混交林化は困難なため、針葉樹林を維持していくという視点も必要 ・ 針広混交林化を目指すのであれば、耐陰性が高い樹種（常緑樹）が生育する地域を中心に検討 ・ 木材生産林の目標林型は川中、川下のニーズに合わせることも必要 ・ 森林整備をどこまで続けていくのか示すことが必要 <p><誘導手法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業的な視点で見ると、間伐率40%は高すぎるので再検討が必要 ・ 目標林型に誘導するための施業方法の確立に注力することが必要 ・ 人員も資金も限りがあるため、奥山等放置する箇所を決めるべき ・ 目標林型に誘導した場合における山主のメリットの創出も必要
3 森林情報基盤の整備	(1) 森林情報の一元化	—
	(2) 森林の現況把握	—

<基本理念2 木材の循環利用を進める森づくり>

施策目標	事業	おもな意見
4 経済と保全のバランスがとれた木材生産	(1) 林地保全を意識した木材生産適地での施業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 現場でのコスト削減は限界。原木の所有者ごとの仕分けをやめるといった仕組の改善を検討することが必要 木材生産が可能な人工林の絞り込みが必要。その際には数値データを用いて客観的に行うことが重要
	(2) 林地保全を意識した作業システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> タワーヤードによる間伐は伐採幅が広くなりすぎないように注意が必要 タワーヤードによる小規模皆伐の容認も検討が必要
5 効率的な林業用路網の管理と整備	(1) 林道の効率的な維持管理	—
	(2) 作業道を中心とした効率的な路網整備	<ul style="list-style-type: none"> 開設だけでなく、既設路網の改良も必要 作業道は管理者が地元住民であるため、地元が管理できるのか疑問 搬出路を中心とした路網整備も検討すると良い
6 森林資源を最大限活用する加工・流通体制の構築	(1) 中核製材工場を核とした木材流通体制	<ul style="list-style-type: none"> 中核製材工場は原木の買取単価が高く、川上側としては誘致によるメリットが大きい (川上側としては) 今後、大径材の買取単価上昇を期待 中核製材工場以外にも原木の流通を希望。 ストックヤードを業者間で共有する仕組みを模索する場がほしい ストックヤードの問題は中核製材工場と連携して検討していくとよい
	(2) 未利用の森林資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 広葉樹の活用方法の検討が必要
7 さらに地域材の利用促進	(1) 公共施設における木造・木質化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域を代表する建築物（学校等）に地域材を使うことは、森林整備の必要性を伝えるためにも重要
	(2) 民間施設における木材利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 住宅以外で、地域材を使った商品と触れ合う機会の創出が木材利用に関する意識啓発には必要 低層非住宅（コンビニなど）の木造化も利用拡大に有益かもしれない テナント補助金を利用した店舗の地図の作成が、豊田市産材と触れ合う機会の増加に有益と思われる
	(3) 地域材の川下への供給体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 川下が地域材を購入できる場の整備が必要 川下に地域材を安定供給する仕組の整備が必要 川下への流通について、地域材の要望を工務店からプレカトメーカーに伝えてほしい ウッドイヤー豊田が地域材を会員に供給するのが良いかもしれない

<基本理念3 地域づくりと一体となった森づくり>

施策目標	事業	おもな意見
8 山村振興と森づくりとの融合	(1) 森林資源を活用した地域産業の振興	—
	(2) 地域づくりと一体となった森づくり	・ 森林施策において、地域づくりを支援する仕組みがあっても良いと思う

<基本理念4 人材育成と共働による森づくり>

施策目標	事業	おもな意見
9 森づくり人材の確保・育成	(1) 森林作業員の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合以外の事業体にも支援が必要 ・ 作業員不足への対策として、市外の林業事業体にも間伐してもらえるような仕組みが必要 ・ 作業員には太い木の切置き間伐に心理的抵抗がある ・ 日南アカデミーが現場育成の参考となる ・ プロを目指した一般の人向けの支援が必要
	(2) 外部の専門機関や専門人材の活用	—
10 森林環境教育による市民理解の醸成	(1) 森林環境教育の持続可能な実施体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座のパターン化とプロの外部講師の活用が持続可能な実行体制に必要 ・ ただし、講座をパターン化すると、講座内容の面白みが減少しやすいことから注意が必要 ・ 子どもを対象とした森林環境教育の実施も必要 ・ SNSの活用によるイベント、講座の周知
	(2) 森づくりに対する市民理解の拡大	・ モリジャムから森林学校へつなげる流れが必要
11 協働による森づくりの推進	(1) 市民及び企業による森づくりの推進	・ シルバー人材の活用も検討してほしい

<計画・資料の体裁>

- ・ 図表を用いることにより、視覚的にわかりやすい計画・資料となると思う
- ・ 数値目標だけでなく、将来的にどのような状態を目指すのか、言葉で表現することも必要